

誰もが抱える悩みをパッと解決！

福田貴一先生の



早稲田アカデミー
教育事業第二本部副部長
福田 貴一

福が来るアドバイス

「わかる」と「できる」の間にある、大きな壁

「わかる」と「できる」の間に大きな壁がある

塾へのお迎えの際、お子様に「今日の授業はどうだった？」とお尋ねになることがあると思います。多くの場合、お子様は「うん！ わかったー」とお答えになるのではないのでしょうか。ところが、家で宿題をやっているのを見ると、問題を前にして鉛筆が止まってしまっている、どうも解けていなさそうだ……。そのようなお子様の姿をご覧になったことがある保護者の方も多いはずです。

家庭学習でそんな場面を目にした保護者様からご連絡いただくことがあります。「先生、宿題ができていないのですが、授業はちゃんと聞いていますか？ 子どもは「わかった」と言っているのですが、本当は「わかっていない」のとは違います。中学受験のカリキュラムは、その年齢の生徒にとってはハードルが高いものです。「理解はできても、自分でできるところまではいかない部分＝積み残し」が前提となっているカリキュラムですから、その週に学んだ内容をすべて「できるようにするのは、なかなか難しいことです。ですから、新しく学んだ段階では「なんとなくわかっている」レベルで構わない部分も多くあります。逆に言えば、指導する側が「どこまで『できる』ようにするのか」をしっかり考えることが大切なのです。例えば、早稲田アカデミーでは毎週(学年によっては隔週)単元テストを実施しています。「頑張っ勉強したら良い点がとれた」という結果はお子様「やる気」に直結します。ですからテストで出題されるような問題を重点的に授業で扱い、「できる」かつ「ついでにあげる」ことを意識して指導することもあつてはいます。

「今、どこまで『できる』ようにしておくべきか」

早稲田アカデミーのカリキュラム(四谷大塚の学習シリーズカリキュラム)では、同じ単元の学習が、ある程度の期間をおいて何度も出てくるように組まれています。例えば、小4の1月に初めて学習する算数の「速さ」は、その後、小5の1学期に「ダイヤグラム」や「旅人算」でもう一度学習します。さらに、2学期には「速さと比」として、それまでに学習した内容を「比」を利用しながら再度学び直す時期がやっ

「わかる」と「できる」は違う」という言葉をよく耳にします。さまざまな経験を積んでいる大人であれば、「わかった」ことはすべて「できる」のが普通です。しかし、小学生の場合は違います。「わかった」ことを自分で「できる」ようになるためには、自分のなかでしっかりと咀嚼し、試行錯誤する過程が必要なのです。今回は「わかる」と「できる」の違いについて書かせていただきます。

聞いて、お父様やお母様から「わかっていない」と決めつけられてしまうと、自分が「わかった」と思っていた気持ち揺らいでしまい、自信を失うことにもつながってしまつからです。

「わかる」と「できる」

冒頭でも書かせていただいたように、小学生の場合、「わかった」だけではなかなか「できる」ようにはなりません。ですから、小学生を指導するうえで、「わからせよう」と教えるのではなく、「できるようにする」ということを意識して教えるのが一番大切だと、私は考えています。

小学校の教科書は、その年齢の生徒であればおむね「できる」ことを前提につくられています。ですが、中学入試へ向けた学習のためのテキストをクリアすれば解けるようになるのか、「そんな風に考えてお子様に接していただくことをおすすめします。」

番心掛けているのは「スタートラインは生徒である」ということです。早稲田アカデミーの講師へ向けた研修でも、「使用する『教材・テキスト』を指導のスタートラインにするのではなく、教わる「生徒」から考え始めるようにする」ということをよく伝えていきます。「この問題を、このクラスの生徒たちが『できる』ようになるためには、どう噛み砕いて教えればよいのか。授業中どんな問題に取り組ませ、どうやって解説するのがよいのか」。私自身、常にそんなスタイルで授業の準備をしています。ご家庭でも、テキストの解答や解説をそのまま伝えるのではなく、「どこでつまづいているのか、どのポイントをクリアすれば解けるようになるのか」そんな風に考えてお子様に接していただくことをおすすめします。



この点を考えると、次に同じ単元が出てくるときに、どこから学習が始まるのかを理解しておくことが必要になってきます。言い換えれば、次に学習するまでに「できる」ようにしておくべき到達点を把握しておかねばならないわけ

「今、どこまで『できる』ようにしておくべきか」そのためにはどのような指導が必要か」を判断するのは、保護者の皆様にとってはなかなか難しい部分だと思えます。むしろ、それを見極め、指導をしていくことは講師の責務といえるでしょう。ご家庭で指導される際に、「今の段階でどこまで『できる』ようにしておかなければならないのか」と悩まれた場合は、担当の講師までご相談いただくのがよいでしょう。

生徒が「できる」ようにするために、私が一

福田 貴一 の 四つ葉café 公開中!

中学受験をお考えの小学校3・4年生のお子様をお持ちの保護者様のためのブログです。

早稲田アカデミー 教育事業第二本部 副部長 福田 貴一

中学受験に関するブログを公開しています。このブログでは、学習計画の立て方、やる気の引き出し方、テストの成績の見方、学校情報など、中学入試に関するさまざまなことについて書いています。

詳細はWebをご確認ください。

早稲田アカデミー 検索

左の二次元コードを読み込んでご確認ください

スマートフォン対応